

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32643

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13463

研究課題名（和文）東アジアにおける「資本主義」概念の成立－W. ゾンバルトの影響を中心に

研究課題名（英文）The Making of the Concept "Capitalism" in East Asia - Focusing on the Influence of W. Sombart

研究代表者

周 雨霏（ZHOU, Yufei）

帝京大学・外国語学部・講師

研究者番号：50823803

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「最若年」歴史学派の代表者であるヴェルナー・ゾンバルト（1863-1941）に焦点を当て、近代資本主義の歴史的起源と段階的發展に関するゾンバルトの学説が東アジアの経済学者の資本主義理解に与えた影響を明らかにするものである。特に、ゾンバルトの経済学研究の中で、企業家精神、統合的な経済哲学、資本主義発生論に関する議論が日本と中国の経済学者の間で活発な議論を引き起こしているにもかかわらず、これまで十分に検討されてこなかった。本研究は、これらの知的連鎖を個別の経済学者の論説に即して検証し、多数の成果を論文として発表できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東アジアにおいて、資本主義に関する言説がすでに20世紀初頭に登場したが、多くの先行研究は1930年代の日本における資本主義論争及び中国における社会史論戦に集中している。初期の議論、特にドイツ歴史学派の強い影響を受けた資本主義論の東アジアへの移入の実態は、十分に解明されていない。本研究は、世紀転換期のドイツにおける代表的な資本主義論者であるゾンバルトの受容史を手がかりに、一国史的な枠組みを超えて20世紀前半の資本主義をめぐる言説のトランスナショナルな交差全体を視野に入れることに努めた。

研究成果の概要（英文）：This research centers on Werner Sombart (1863-1941), a seminal figure of the German Historical School of Economics, and seeks to elucidate the influence of Sombart's theories concerning modern capitalism among East Asian economists. Specifically, it explores how Sombart's multifaceted discussions on the spirit of entrepreneurship, the "verstehende Wirtschaftswissenschaft", and the genesis of capitalism have incited vigorous debates among economists in Japan and China, areas which have hitherto been overlooked. This research rigorously analyzes the above-mentioned intellectual entanglement through examination of individual economists, and have successfully disseminated a couple of scholarly articles.

研究分野：経済思想史

キーワード：経済思想 資本主義論 ドイツ歴史学派

## 1．研究開始当初の背景

2008 年に世界規模で拡大した金融危機をきっかけに、資本主義に対する再検討が経済学・経済史・労働史など多様な領域の研究者の関心を集めている。欧州および北米においては、Jürgen Kocka と Marcel van der Linden が編集した論文集『Capitalism: The Reemergence of a Historical Concept』（Bloomsbury Academic, 2016）や、コロンビア大学出版会が 2017 年から刊行し始めたシリーズ「Columbia Studies in the History of U.S. Capitalism」など、資本主義を歴史的な文脈から捉え直す目的とする研究が多数刊行されている。

ところが、「資本主義」という多岐にわたる概念に対する理解が、時の景気の動向、社会科学の水準、そして思想傾向に大きく左右されるにもかかわらず、資本主義理解をめぐる思想史的検討がごくわずかの例外しか存在しない。とりわけ、非西欧の知識圏における近代資本主義をめぐる議論は未だ未開拓の領域にとどまっている。それに対して、本研究では、東アジアにおける社会科学の草創期に着目して、「資本主義」という舶来した概念が土着化する過程における物的・人的・知的連動を明らかにすることで、このような研究動向を学説史・思想史の側面から補足することを意図している。

## 2．研究の目的

本研究は、ドイツ歴史学派の代表的な経済学者であるヴェルナー・ゾンバルト（1863-1941）に焦点を当て、『近代資本主義』（第 1、2 版）、『三つの経済学』、『獨逸社会主義』などの著作で代表されたゾンバルトの学説が東アジアの経済学者に与えた影響を解明することを目的としている。具体的な段取りとして、まず、20 世紀前半の日本と中国の経済学者たちが、いかなるネットワークを通じて、ゾンバルトの学説と接触したかを歴史的に考証する。そして、ゾンバルトの学説が、日本と中国それぞれの知的分脈の中で、どのように再解釈されたのかを明らかにする。

## 3．研究の方法

（１）まず、ゾンバルトの著作、刊行論文、そして、ゾンバルト学説に対する同時代人による評価など、ドイツ語圏における二次文献を網羅的に蒐集・分析する。それによって、『近世資本主義』第一版（1902）の上梓から第二版（1916-1927）の刊行までという長い時間的なスパンにおいて、ゾンバルトの資本主義分析の全体像をマックス・ヴェーバーをはじめとする同時代の論者との相生・相剋関係を背景に描き出す。

（２）大塚金之助、馬場誠、小泉信三というゾンバルトと個人的交際を持つ三人の日本人学者の日記、エッセイ、書評や回想を調べて、ゾンバルトの学説を日本に流入した経緯を実証的に検証する。その上で、福田徳三、河田嗣郎、大西猪之助、大塚久雄、難波田春夫など、ゾンバルトの資本主義論に高い関心を示した経済学者の関連論説を検討し、「近代企業」、「資本主義精神」、「初期資本主義の発展における国家の役割」という三つのアスペクトからゾンバルトの資本主義論が日本に与える影響を検証する。

（３）中国の経済学者のゾンバルト学説の捉え方を把握する上で、『東方雑誌』、『民国日報』、『先駆』、『向导』など、「資本主義」をめぐる論戦が激しく戦われたプラットフォームを調査し、論戦に参加する個別論者の留学経歴や人的ネットワークを明らかにすることが必要である。新型コロナウイルス感染拡大による渡航規制により、現地調査が中止となったが、ベルリン国立図書館が提供するアジア情報サービス「CrossAsia」を通じて、晩清から民国時代に刊行された新聞、雑誌を収録するいくつかのデータベースにアクセスでき、ドイツ経済学が民国時代における受容の実態を明らかにした。

## 4．研究成果

2020 年度は、パンデミックの影響により、当初予定していた海外調査がやむを得ず、中止となり、国内で入手できる文献を中心に分析作業を行った。特に重点を置いたのは、次の 2 点である。まず、新たに公開されたゾンバルトの Ferdinand Toennies, Edgar Salin など同時代の社会科学者宛の書簡を手がかりにして、ゾンバルトを取り巻く思想的な局面と彼の資本主義理解に対する生涯史的・精神史的な再検討である。これに関する研究成果として、新刊のゾンバルト書簡集（Friedrich Lenger et. al. (eds.), *Werner Sombart: Briefe eines Intellektuellen (1886-1937)*, Duncker & Humblot Verlag, 2019.）を取り上げる書評を発表した。次に、下積み作業として、近代国家、資本主義、市民社会など「モデルネ」の諸命題が世紀転換期において東アジアで受容される条件に関

する学問構造の視点からの包括的な検討である。その中で、これまで見落とされていた日本の史学科出身者とドイツ歴史学派の接点、とりわけ箕作元八や阿部秀助と G. Schmoller の人的繋がりを明らかにした。これは、当初想定していなかった新しい発見である。研究成果として、「日本におけるランケ史学の受容」と題する報告を行い、Methodenstreit が日本で引き起こした波紋として、政治・思想・経済の諸要因を相互に関連づける学際的な歴史研究のパラダイムが樹立される経緯に辿り着いた。原稿に修正を加えて、「日本におけるランケ史学の伝播と受容」を題する論文を査読学術史に投稿し、掲載となったのである。

2021 年度には、まず、明治・大正期において精力的にゾンバルトの学説を紹介していた河田嗣郎に注目した。黎明期社会政策思想の文脈から、河田の資本主義精神や資本主義の起源などの問題に対する理解を検討し、ゾンバルト学説との継承関係を確認した。その成果として、「The Ideal of Social Policy: Kawada Shiro's Analysis of Capitalism and Urban Social Problems」を題する報告が査読を経て国際学会で発表された。また、同時代の中国における西洋経済思想、とりわけドイツ経済思想の受容実態を清末から民国期にかけての経済雑誌を中心に調査を行い、これまでほとんど知られていなかった中国におけるドイツ経済思想の受容全貌を明らかにした。その成果として、「The German Impact on the Economy Thought in Republic China」と題する報告を同年 12 月に開催された国際シンポジウム「ドイツ社会科学の近代東アジア」で報告できた。なお、本シンポジウムの開催も科研費成果の一つであり、ゾンバルト学説の受容史に限らず、世紀転換期におけるドイツ社会科学 (Sozialwissenschaften) が世界的範囲で及ぼした影響を再検討できた。

2022 年度には、以下の 2 つの活動を中心に研究を進行した。まずは 2021 年度に国際会議で報告した内容の活字化である。成果として、「Social Policy, Social Thought, and Social Reform in Prewar Japan: Kawada Shiro's Analysis of Capitalism and Urban Social Problems」を題する論文を学内紀要で刊行した。次に、ゾンバルトの明らかに反唯物論・反合理主義的な経済学方法論に焦点を当て、彼の「三つの経済学」(die verstehende Nationalökonomie, die ordnende Nationalökonomie, die richtende Nationalökonomie) が戦時日本の経済思想に与えた影響を取り上げる。具体的に、ゾンバルトの『獨逸社会主義』の邦訳者であり、戦時中、『国家と経済』(五巻)で、日本の「特殊的限定的な経済学」を目指して、「家・郷土・国体」という三重構造を実証的に論じた経済学者難波田春夫の思想を手がかりにして、戦時期日本とドイツの反普遍主義的な経済思想における交錯と連鎖を解明することを試みる。その成果として、「「国民精神」と「経済学」：W・ゾンバルトと難波田春夫の思想的交錯を論じる」と題する報告は同年 9 月に開催された研究会で発表した。

2023 年度には、外地の経済学者についても検討する必要があるという認識に基づき、アジア社会の資本主義移行に関して精力的に論じた京城帝国大学の森谷克己を中心に、京城帝大における社会経済史研究を取り上げた。その成果として、「京城帝国大学の社会経済史研究-森谷克己(1904-1964)を中心に」を題する報告を所属学会の例会において行った。またその内容を活字化にして、2025 年度中に論文(論文集に収録)として刊行される予定がある。

(以上)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Zhou Yufei	4. 巻 2022年
2. 論文標題 The Concept of 'Oriental Despotism' in Modern Japanese Intellectual Discourse	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The International History Review	6. 最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/07075332.2022.2147570	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yufei Zhou	4. 巻 第一号
2. 論文標題 Social Policy, Social Thought, and Social Reform in Prewar Japan: Kawada Shiro's Analysis of Capitalism and Urban Social Problems	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 帝京大学国際日本学研究	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 周 雨霏	4. 巻 第5巻
2. 論文標題 国際左派漢学と日本の中国研究：以魏特夫《中国的經濟与社会》在日本的介説与接受为中心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史教学問題	6. 最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zhou Yufei	4. 巻 66
2. 論文標題 Tatiana Linkhoeva. Revolution Goes East. Imperial Japan and Soviet Communism. [Studies of the Weatherhead East Asian Institute, Columbia University.] Cornell University Press, Ithaca (NY) [etc.] 2020. x, 281 pp. \$27.95. Open Access.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Review of Social History	6. 最初と最後の頁 144～147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/s0020859021000067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周雨霏	4. 巻 第8号
2. 論文標題 蘭克史学在日本的传播与接受	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学术研究	6. 最初と最後の頁 121-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周雨霏	4. 巻 第11号
2. 論文標題 馬克思主義史学与二戰前及戰時日本の亞洲研究：以“ 亜細亜的 ” 一詞的流行与語義變遷為中心	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史學月刊	6. 最初と最後の頁 107-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周 雨霏	4. 巻 9月7日号
2. 論文標題 (Book Review) Friedrich Lenger et. al. (eds.), Werner Sombart: Briefe eines Intellektuellen (1886-1937). Duncker & Humblot Verlag, 2019.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上海書評	6. 最初と最後の頁 Webメディア
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Yufei Zhou
2. 発表標題 From State Neoliberalism to Neo-Listianism: Transition of the Dominant Economic Ideology in China in the 21st Century
3. 学会等名 International Symposium: The Future of Liberalism: Japan, France and Germany in Global Context (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 周 雨霏
2. 発表標題 外来学問的国際化困境：日本經濟思想史研究面臨的挑戰与对策
3. 学会等名 国際シンポジウム「新時代に向けた国際日本研究：理論と方法」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 周 雨霏
2. 発表標題 「国民精神」と「経済学」：W・ゾンバルトと難波田春夫の思想的交錯を論じる
3. 学会等名 研究会：日独近代化における 国民文化 と宗教性
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yufei Zhou
2. 発表標題 The Ideal of Social Policy: Kawada Shiro ' Analysis of Capitalism and Urban Social Problems
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yufei Zhou
2. 発表標題 Imagining Capitalism in Early Twentieth Century Japan: The Discourse on the Capitalist Spirit, the Corporation and the Modern Menschentyp
3. 学会等名 Contested Knowledge in a Connected World ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Yufei Zhou
2 . 発表標題 Fudo, Volksgeist and the “ Japanese Economy ” of the Totalitarianism: The Wartime Economic Thought of Naniwada Haruo
3 . 学会等名 Fascism in Motion: Concepts, Agents and the Global Experiences ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Yufei Zhou
2 . 発表標題 The German Impact on the Economy Thought in Republic China
3 . 学会等名 Globalizing the Social Sciences: German-East Asian Entanglements in the 19th and 20th Century ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Yufei Zhou
2 . 発表標題 The “ Reactionary Modernist ” and His Transnational Legacy: Werner Sombart and Japan
3 . 学会等名 Der 7. Deutsch-Asiatischer Studientag Literatur- und Geisteswissenschaften ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 周 雨霏
2 . 発表標題 蘭克史学在日本的传播与受容
3 . 学会等名 [ シンポジウム ] 20世紀以來の中華學術与外来思想 ( 招待講演 )
4 . 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 (Symposium) Globalizing the Social Sciences: German-East Asian Entanglements in the 19th and 20th Century	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------